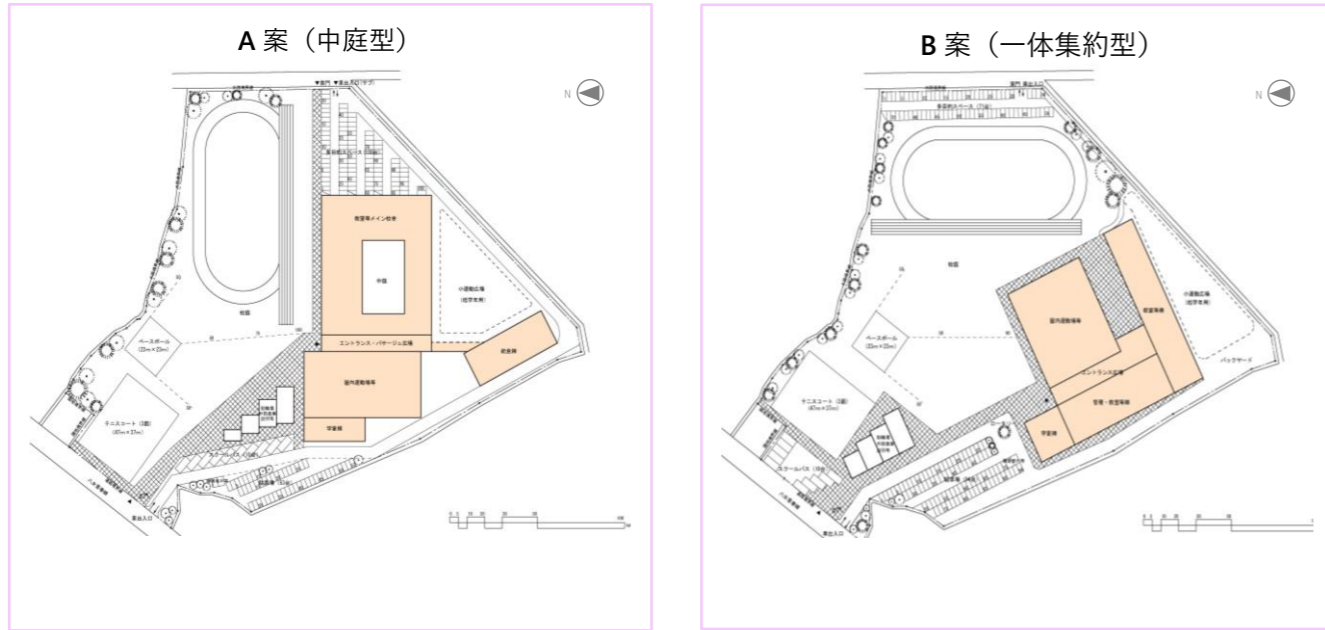




◇ 計画案

以上を踏まえて、施設計画案を2つ（A案：中庭型、B案：一体集約型）作成しました。児童生徒にとって学びやすく、安心して過ごせる環境を提供できる計画とし、将来にわたって持続的な教育活動を支える学校施設とします。



7. 今後の整備体制

● 今後の検討課題

学校再編に向けて、「新校の教育方針と特色づくり」、「教職員の人事配置と連携体制」、「スクールバスや通学支援策の具体化」などについて、今後も継続した検討が必要です。

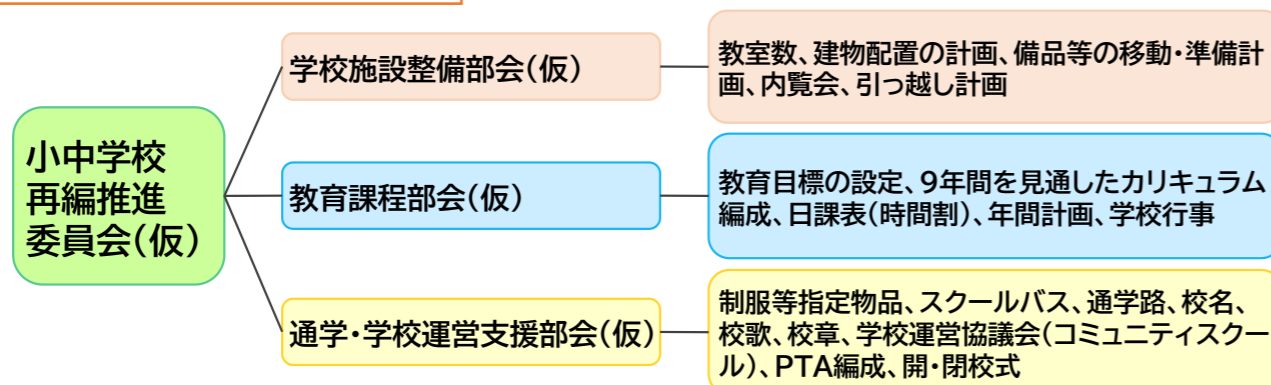
● 検討・整備に必要な体制

教育委員会の内部体制に加え、「小中学校再編推進委員会（仮）」を設置し、多角的な視点から意見を収集・反映していく体制を整備します。

● 地域とともに歩む学校づくり

うきはの子どもたちを地域とともに育てていくため、学校と地域との連携・支援体制を充実させ、互いに交流を深めながら、地域の人たちが子どもたちの教育活動を支えやすい環境を整備します。

開校に向けた委員会等の設置



1. 施設整備のコンセプトと方針

本計画は、「うきは市浮羽町域学校再編基本構想」を踏まえて、施設の必要機能や規模、配置などの基本的な計画案を示したものです。

◆ 施設整備コンセプト

郷土を愛し、夢や志を持ち、グローバル社会を豊かに生き抜く児童・生徒の育成
 — 地域の宝を次代につなぐ教育・まちづくりの拠点整備 —

◆ 整備方針

- ① 義務教育学校の実現
- ② 安心・安全・快適な学習環境
- ③ 地域とともにある学校づくり
- ④ 地域資源と風土をいかす施設デザイン
- ⑤ 持続可能な維持管理と運営モデル

2. 計画条件

浮羽中学校敷地内に小中一体型の新施設を整備する再編案を想定し、施設配置等の現況や敷地面積等については、右表のとおりです。

また、計画地の既存学校施設は現在避難所に指定されており、有事の際には学校関係者に限らず地域住民の命を守る重要な施設となります。

計画地	現浮羽中学校敷地
敷地面積	校地総面積：43,278 m ² 建物敷地面積：約 10,000 m ² 屋外運動場用地面積：約 20,000 m ²
道路種別 幅員	北西側：県道52号八女香春線 幅員約7m 東側：市道 幅員約4m
用途地域 ・地区	1. 都市計画区域：準都市計画区域内 2. 用途地域：未指定 3. 防火地域：－ 4. その他の地域区域：－ 5. 建ぺい率：70% 6. 容積率：200% 7. 高さ規制：－ 8. 日影規制：建築物の高さが10m超の場合は有り
災害 リスク	洪水浸水想定区域に指定されており、1.0～3.0m未満の浸水深が想定される。



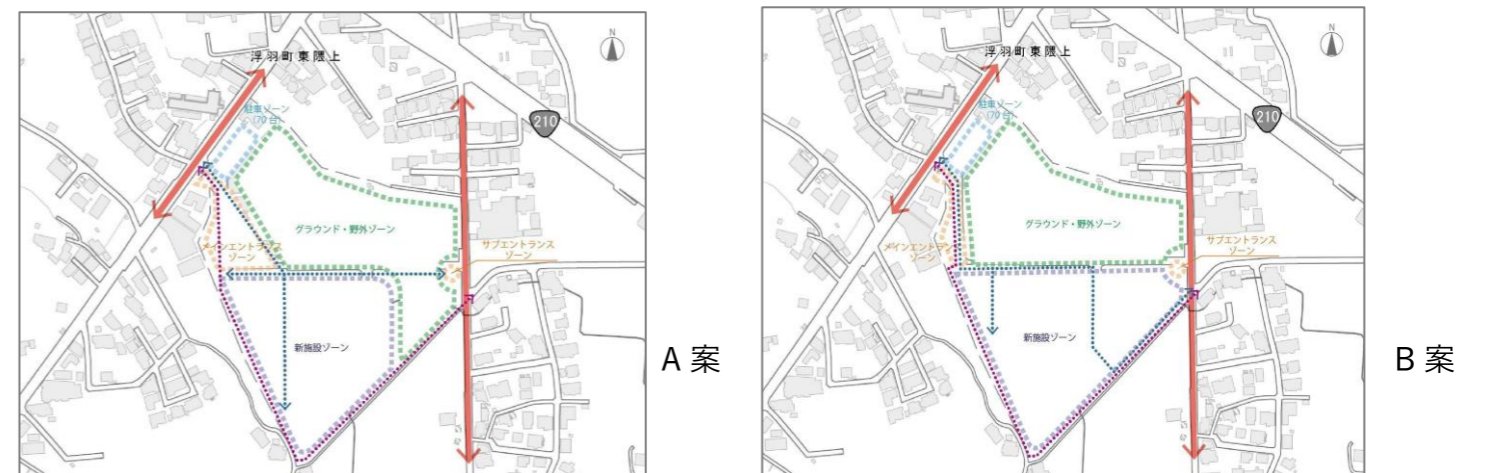
計画地▶

(現浮羽中学校敷地)

3. 配置計画（ゾーニング）

新校舎の配置は、現在のグラウンドのエリアに新設校舎等を建設し、建設後に移転する方法が最も学習環境への影響が少なく、また、仮設校舎が不要なためコスト面からも有効な方法と考えられます。

新設校舎等の構成として、エントランスや校舎への児童・生徒のアプローチ動線のとり方、車動線の取り方、及び避難計画、騒音・日照等への配慮し、以下の2パターンのゾーニングを想定しました。





4. 施設構成

配置計画の考え方、及び文部科学省等の各種仕様、類似事例等を踏まえて、施設の考え方、施設規模、必要諸室・面積等を以下のように設定しました。

◇教室数の設定と必要規模（文科省基準）

	児童生徒数	通常学級数	特別支援学級数	合計学級数	必要規模
小学校（浮羽町域）	375人	14	7	21	7,624 m ²
中学校（浮羽中）	269人	9	3	12	6,284 m ²

◇諸室の方針

施設一体型義務教育学校の検討にあたり、主に特別教室は児童・生徒の体格差など配慮を要します。児童・生徒が特別教室を共用した場合の一般的な特徴と配慮事項も含め、方針を検討しました。

〈特別教室〉	〈管理諸室〉	〈屋外施設〉
<ul style="list-style-type: none"> 音楽室 図書室 家庭科室 理科室 美術・図工室 コンピュータスペース 多目的室 屋内運動場 技術室 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室 校長室 保健室 事務室 印刷室 給食室 会議室 湯沸室 相談室 教材室（資料室） 	<ul style="list-style-type: none"> 200mトラック サッカーグラウンド 野球グラウンド テニスコート 小運動広場 中庭・テラス アプローチ 駐車場 バス駐車場 駐輪場 部室 屋外倉庫 廃棄物保管室

◇施設全体の規模

前項までの教室数と必要規模、各諸室の方針を踏まえると、施設全体の規模は約 14,000 m²となります。

施設名	面積(m ²)
校舎	11,612
屋内運動場等	2,500
計	14,142

5. 施設基本計画

◇基本方針

計画所要室	<ul style="list-style-type: none"> 学年クラスター×学年コモンズ×特別教室の連携により、個別・協働・探究が機動的に展開できる平面構成。 普通教室は ICT・可動家具・展示機能を標準化、特別支援教室は低層配置・静養室等を付置。 図書・LC は学年コモンズと面で連続し、ホールや多目的空間は発表・地域協働の核として整備。
屋外施設	<ul style="list-style-type: none"> 運動場や駐車場、駐輪場、バスベイ、給食車動線の歩車分離を徹底し、来校者や児童・生徒、サービス車両、防災時を分節。 既存グラウンドは時間帯ゾーニングで中学校利用と調整します。主要出入口は北西側と東側を基本に、安全性と回遊性を担保。
付帯施設	<ul style="list-style-type: none"> 給食は校内調理方式とし、HACCP 対応や清潔・動線分離、アレルギー個別対応を標準化 ランチルームを併設して多目的利用に供する。放課後児童クラブは独立出入口とし、学校内動線と緩やかに分節化。静養・外遊びへの動線を確保。

◇施設基本計画

動線計画と配置計画	建物配置 <ul style="list-style-type: none"> 教室棟を中心に特別教室群・図書スペースを近接させ、体育館は地域開放・避難所運用を見据えた配置 給食室・ランチルームはサービスヤード側に配置し、給食車動線と校内動線を分離 道路からの敷地内出入口 <ul style="list-style-type: none"> 車両は北西ゲートに集約しサービスヤードと直結 徒歩・自転車は北西側を主動線とし、歩車分離と一時待機スペースを確保
造成計画	既存校舎を使用しながら施工を進めていくことを想定し、新校舎等を建設する第1期南側工区（現屋外運動場側）と屋外運動場等を整備する第2期北側工区（既存校舎側）に分けた計画とする。
平面計画	基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> ①児童・生徒ファーストの平面設計 ②柔軟かつ相乗効果の高い計画 ③児童・生徒に配慮した特別支援教室 ④ICT教育・地域連携に配慮した特別教室 ⑤校舎と一体化した屋内運動場等 ⑥安全・安心に配慮した管理諸室 ⑦安全・防犯対策 ⑧ユニバーサルデザインに配慮
構造計画	基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> 主要構造・非構造部材・設備固定の耐震性確保 地域産材（木材）の活用 耐久性を損なう要因（たわみに・ひび割れ・錆）が起きないように構造部材の選定 現場の実情を理解し施工上の問題点を十分に検討した設計 最も経済的な架構及び工法の選定
設備計画	基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> ZEB化を目指し、熱源高効率化と空調ゾーニング等でランニングコストを低減 自然換気・日射遮蔽・断熱の外皮強化、LED・調光、節水器具・雨水/中水活用を検討
環境配慮計画	<ul style="list-style-type: none"> ZEB化を目標とした一次エネルギーの削減 自然採光・自然換気、雨水利用、地域産材の積極利用、環境の教材化（ビオトープ等）を検討 木材との適合性を精査し一部校舎の木造・木質化を検討
防災計画	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所の機能を担い、発災後も継続稼働できるライフライン冗長化と備蓄機能の確保を検討 体育館、管理・保健室、給食・ランチルーム、屋外等に防災機能の確保と運用を検討 文科省指針に沿い、発災時から学校機能再開までの各段階に応じた防災の計画を実施
防犯計画	建築計画による対策 <ul style="list-style-type: none"> 周囲から見通しがよく死角のない配置計画 緊急時にも即応できる職員室・事務室の配置 防犯説による対策 <ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラやインターホン等防犯設備による対策を検討

6. 概要事業費と事業スケジュール

本計画における計画面積に基づき概算事業費を試算した結果、約 84.4 億円（消費税含む）となりました。なお、事業費については、今後、具体的な設計・調査結果等を踏まえながら精査していきます。

